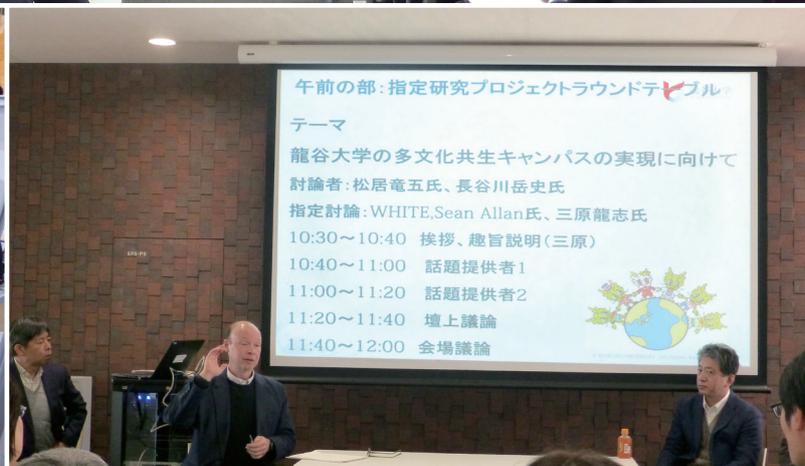


龍谷大学 学修支援・教育開発センター通信

Ryukoku University
Learning Support ·
Educational Development
Center Report



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

学修支援・教育開発センター | 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
Tel 075-645-2163 Fax 075-645-2190 <http://www.ryukoku.ac.jp/faculty/fd/index.html>
発行日：2018年3月 編集・発行：龍谷大学 学修支援・教育開発センター



学生FDサロン



FDフォーラム

2017, Number 02

CONTENTS

十学部合同学生会主催

p03 「第2回学生FDサロン」開催報告

第13回龍谷大学FDフォーラム2017

p04 「“中退予防”を起点にした大学カアップ—すぐに始める中退予防—」開催報告

p06 「教育の質保証と学修成果の可視化」に関する勉強会開催報告

p06 FDサロン「龍谷大学の多文化共生キャンパスの実現に向けて」開催報告

2017年度第2学期

p07 「学生による学期末の授業アンケート」実施報告

p07 2017年度コモンズチューター活動報告

p08 2017年度学修支援教育開発センター事業内容報告

p11 新着図書を紹介

「第2回学生FDサロン」開催報告

2017年度第2回学生FDサロン

「真剣龍大 しゃべり場：理想の授業をつくろう」

学生の正課環境の改善・向上を目的に活動する十学部合同学生会が学修支援・教育開発センターとの連携のもと、学生FDサロン※を開催しています。

2017年度2回目となる今回の学生FDサロンは、「理想の授業をつくろう」というテーマを設定し、10月17日(火)に瀬田学舎学生交流会館、10月19日(木)に深草学舎和顔館スチューデントコモンズにおいて開催しました。学生・教員・職員がグループに分かれ、「自校教育」や「シラバス」について話し合い、その内容を参加者全員で共有し、意見交換を行いました。

※十学部合同学生会が中心となり企画・立案・運営する学生主体のFDサロン



参加した学生・教職員の意見

- 授業に出席する時の意識について、あらためて考え直すことができた。(学生)
- 授業について、他学部や他学年の人と意見を交わすことができた。(学生)
- シラバスに対する学生さんの意見を聞くことができ、授業に対する関心やシラバスをよく見ていることが分かった。(教職員)
- 学生の皆さんが自校教育の必要性について多くの意見を出されており、龍谷大学生としての帰属意識の高さを感じた。(教職員)

第13回 龍谷大学FDフォーラム2017開催報告

第13回龍谷大学FDフォーラムは、「“中退予防”を起点にした大学力アップ—すぐに始める中退予防—」と題し、芝浦工業大学名誉教授の徳永幸生先生にお越し頂き、講演会を開催しました。あらゆる大学が課題に掲げる中途退学について、徳永先生の実体験を中心に、中退予防の意義や中退予防の目標、すぐに始められる取り組みなどについて講演いただきました。

徳永先生プロフィール

1947年生、東京工業大学修士課程修了、工学博士。NTTヒューマンインタフェース研究所・研究企画部長、映像処理研究部長の後、芝浦工業大学工学部情報工学科教授に就任。学校法人芝浦工業大学・常務理事、入試センター長、教育イノベーション推進センター・教育学習支援部門長などを歴任。現在、芝浦工業大学名誉教授。著書に「大学力アップ“珠玉の方法”」がある。

中退予防の意義と中退の要因

- ①中退は教育のすべてに関わる本質的課題に直結し、さらには、教育のみならず、入試、生活指導、就職などの大学全体の体制にも関わることから、中退予防が進展すれば、自ずと大学力はアップする。
- ②中退者の多くが正職につけないことから明らかなように、修学を全うし学士の称号を得ることは学生にとって一生の財産となる。それは、保護者からの高い信頼を得ることになり、ブランド力の向上が期待できる。また、多くの大学では、2～5%程度の中退があり、学費収入の損失は毎年数億円にのぼっている。中退予防は、本来の学費収入を確保し、財政基盤を支えることにつながる。このように、中退予防の取り組みは、学生、保護者、大学の三方一両得のプロジェクトである。
- ③学力不振、精神耗弱、経済的理由は3大中退要因とされているが、中退者のデータを分析すると、大半は単位が取れない(低単位)ことに起因している。中退予防では、この低単位者予備軍の早期発見・早期支援がポイントである。



中退予防の要点

- ①データの収集・分析に基づく、ピンポイントの方策(仮説)の立案・(初めは小さい範囲で)試行の後、徐々に全学へ拡大すること。
- ②中退予防に有効と判明した方策は、標準化(例えばフォーマットにする)してシステムとして日常業務に組み込み実施すること。
- ③中退予防の鉄則は、早期発見・早期指導/支援。1週間全授業を欠席した学生は中退予備群の可能性が極めて高い
- ④有効な中退予防は大学の文化に沿ったものでなければならず、原則、自力本願で取り組み、継続的にノウハウを蓄積しながら進め、同時にその方策を恒常的に見直すこと。
- ⑤やればできる中退予防の取り組みはいろいろある。それを直ちに実行すること。

「— すぐに始める中退予防 —」

中退予防の目標

- ① 個々人の状況にまで踏み込んだ小さな原因を探り、排除することで中退予防が実現されるが、まずは、大きな手間を掛けず、10人程度の削減を目標に取り組むこと。
*大きな削減目標の実現には、大きな組織的取り組みが必要となり、取り組みの実質化まで時間を要する。
- ② 中長期的には、小さな取り組みを継続しながら、教職協働の取り組み体制を構築し1/3程度の削減を目指すこと。
- ③ 中退予防の究極のゴールは、中退しないことを当たり前とする大学の文化を創ること。



すぐに始める中退予防

- ① 新入生と3年生に向けたメンタルヘルス授業の実施。
- ② 出席確認システムの導入による1週間全科目欠席者への面談・指導。(特に広義休学者のマーク)
- ③ 休学者に向けた復学説明会。
- ④ 各年次、各学期における取得単位数の目標の周知。
- ⑤ 推薦入学者の調査書の分析と対応策の立案。

【参加者の声】(アンケートから)

- ・ 中退が持つ様々な側面について知ることができた。
- ・ メンタルヘルス授業などすぐに取り組める事例を聞くことができ、参考になった。
- ・ 「中退予防は教員と職員が協働することが重要である」という言葉が印象的だった。
- ・ 出席管理システムの必要性を強く認識した。
- ・ 学生相談の担当者や外部の業者に丸投げせず、全学的に取り組むことが重要だと感じた。
- ・ 「自力本願」が印象的であった。すぐに実行しようと思う。
- ・ 広義中退者という捉え方が参考になった。

「教育の質保証と学修成果の可視化」に関する勉強会開催報告

「教育の質保証と学修成果の可視化」をテーマに、(株)SIGELから講師を招き、中央教育審議会大学分科会から示された答申の論点整理とともに、e-ポートフォリオ活用事例に関する勉強会をおこないました。

e-ポートフォリオや学修成果の可視化に関する他大学の事例紹介などがあり、参加者からは、活発に質問や意見交換がありました。

(2017年度指定研究プロジェクト「e-ポートフォリオの導入および授業展開に関する調査」・「学修成果の可視化に向けた総合的な方策に関する調査研究」の中間報告会を兼ねて実施されました)



FDサロン「龍谷大学の多文化共生キャンパスの実現に向けて」開催報告

「龍谷大学の多文化共生キャンパスの実現に向けて」をテーマに、ラウンドテーブル形式で開催されました。最初に、松居 竜五先生〈国際学部〉から交換留学について、長谷川 岳史先生〈経営学部〉から本学の多文化共生に関する取り組みについての話題提供があり、続いて、指定討論として、ホワイト ショーン・アラン先生〈経営学部〉から学部共通コースの英語教育について、三原 龍志先生〈文学部〉からは日本人学生が多様性に向き合うための教育について話がありました。

その後、全体討論において意見交換がなされ、参加者の方々はいずれの話にも熱心に耳を傾けられており、和気あいあいとした雰囲気の中にも熱気がありました。

(2016年度指定研究プロジェクト「言語評価指標を活用した自律的学習を支援する自己評価システムの開発」の報告会を兼ねて実施されました)



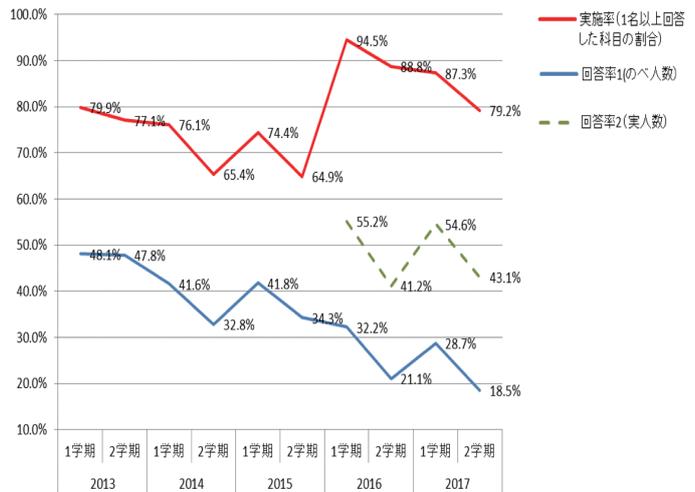
2017年度第2学期「学生による学期末の授業アンケート」実施報告

「学生による学期末の授業アンケート」は、2016年度からmanaba courseを活用した方法へ移行しました。2年目となる今年度第2学期の実施率^{※1}は79.2%（対前年度比9.6%減）、回答率^{※2}は18.5%（対前年度比2.6%減）となりました。

学修支援・教育開発センター（教学企画部）では、2017年度に教学IRの定義^{※3}を定め、教学IR機能の整備と、機動的な意思決定に資する分析を進めようとしております。「学生による学期末の授業アンケート」の結果についても解析をおこない、授業改善活動や学部等の組織的な教育改善活動に活用できるよう支援してまいります。

※1…回答科目（1名以上の回答があった科目）数÷対象科目数×100
 ※2…回答者数÷受講登録者数×100
 ※3…2017年度第4回学修支援・教育開発センター会議承認

「学生による学期末の授業アンケート」実施状況（実施率・回答率）一覧



実施率1…回答科目（1名以上の回答があった科目）数÷対象科目数×100
 回答率1…【延べ人数回答率】回答者数÷受講登録者数×100
 回答率2…【実人数回答率】実回答者数÷実受講登録者数×100
 （実回答者数=1学生が1以上の科目を回答した場合は1人とカウント）
 （実受講登録者数=1学生が1以上の対象科目を有する場合は1人とカウント）
 ※回答率2は、manaba courseを活用した授業アンケートの実施により算出が可能となった。

深草ライティング支援 コモンズチューター活動報告

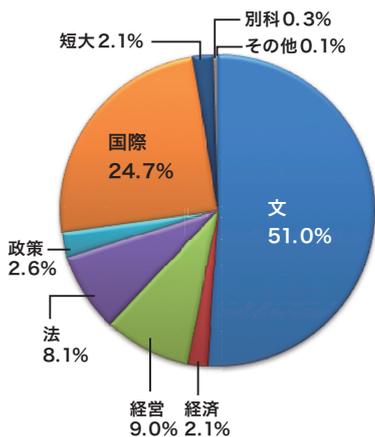
深草コモンズにおけるコモンズチューター（大学院生）によるライティング支援は2017年度で3年目となります。今年度もコモンズチューターのスキルアップに努め、支援方法・内容等の改善・充実に取り組んできました。

2018年度からは「ライティングサポートセンター」が設置され、事業が引き継がれるとともに、深草・瀬田・大宮の全キャンパスでライティング支援を展開していきます。

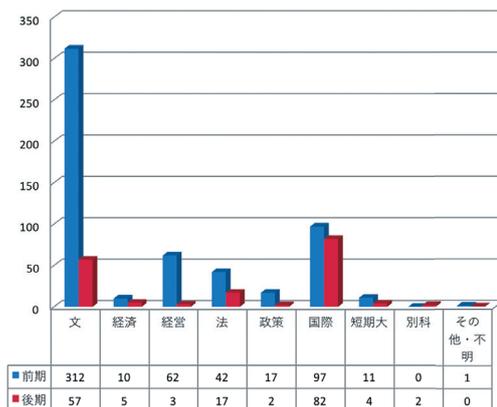
（瀬田学舎では従来から「ライティングセンター」にて支援をおこなっていましたが（参考）2017年度利用実績：延べ456人）が、2018年度からは、深草学舎と同様、「ライティングサポートセンター」にてライティング支援を展開します）

■コモンズチューター利用者内訳

2017年度（前期+後期）学部別利用者割合

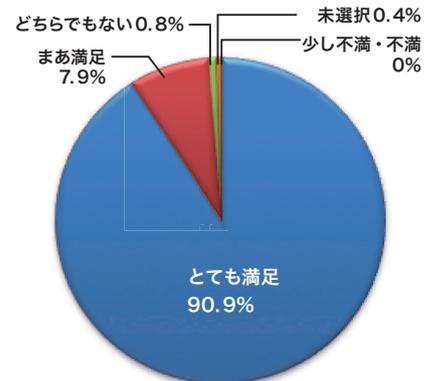


2017年度（前期+後期）学部別利用者数

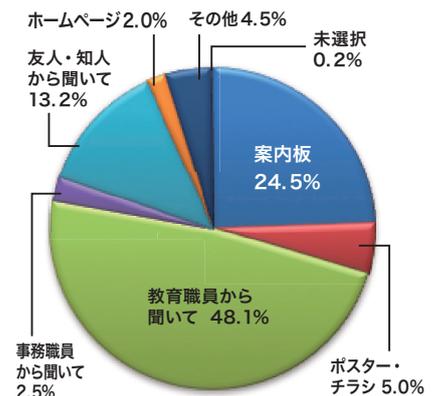


■コモンズチューター利用者のアンケートから

コモンズチューター利用者の満足度



コモンズチューターを知った方法



2017年度学修支援・教育

1. 教育開発・研究

自己応募研究プロジェクトポスター
展示期間:2018年3月下旬～4月上旬

<自己応募研究プロジェクト>

テーマ	代表者
博士後期課程及び大学院生を対象とした集団スーパービジョンシステムの効果研究	赤津 玲子 (文学部)
ソーシャルデザインと創作アートを活用した「ものづくり型PBL」の実践と評価	神谷 祐介 (経済学部)
英語媒体の補助資料活用のための教材開発	島根 良枝 (経済学部)
英語での講義 (経営学・会計学) の実践の準備	木下 徹弘 (経営学部)
Moodle機能を使っでのチーム基盤型学習 (Team Based Learning/TBL)	李 洙任 (経営学部)
グローバルスタディーズ学科3つの学問領域 (1) グローバリゼーション領域、(2) コミュニケーション領域、(3) エシックス領域に対応した教材作成・教材開発	長尾 明子 (国際学部)
【教材開発】映像編集から“物語”を紡ぐ	松本 章伸 (社会学部)
入学時生物・化学プレテストを用いた学部教育適合性の評価解析	久保田 優 (農学部)

<指定研究プロジェクト事業>

テーマ	代表者
eポートフォリオの導入および授業展開に関する調査	藤田 和弘 (理工学部/教学企画部長、学修支援・教育開発センター長)
学修成果の可視化に向けた総合的な方策に関する調査研究	築地 達郎 (社会学部/ FD 企画推進委員)

2. 教育改善活動支援

<学生による学期初めの授業アンケート>

対象科目: 2017年度第1学期、第2学期全開講科目

<学生による学期半ばの授業アンケート>

対象科目: 2017年度第1学期、第2学期全開講科目

<学生による学期末の授業アンケート>

対象科目: 2017年度第1学期・第2学期開講の講義科目

※原則、講義科目は実施することとし、演習・実習等の科目や研究科科目の実施については、各開講責任組織で判断して実施した。

■実施状況

学期	実施期間	利用枚数
1学期	4月10日(月)～4月22日(土)	14,512
2学期	9月20日(水)～10月3日(火)	8,183

学期	実施期間	利用枚数
1学期	5月29日(月)～6月10日(土)	12,182
2学期	11月6日(月)～11月18日(土)	6,437

学期	実施期間	対象科目数	回答科目数	実施率
1学期	7月10日(月)～8月7日(月)	3,329科目	2,906科目	87.3%
2学期	1月9日(火)～2月5日(月)	3,490科目	2,763科目	79.2%

※実施率: 回答科目(1名以上の回答があった科目)数÷対象科目数×100

3. 教育活動交流・研修

<FDサロン・研修会等>

開催日	種別	研修名/テーマ/	主催/講師
4月1日、3日	研修	2017年度新任教員時研修	藤原 直仁 (副学長)、 藤田 和弘 (学修支援・教育開発センター長)、 吉貞 正流 (研究部 課長)、 熊谷 睦史 (REC 事務部 部長)
<瀬田> 2017年6月13日(火) <深草> 2017年6月15日(木)	学生FDサロン	あなたは何の為に授業を受けていますか? ～何の為、誰の為の授業～	十学部合同学生会
2017年10月11日(水)	FDサロン	高大接続にかかる英語教育の現状と展望 ～高校・大学それぞれの立場から～	明吉 正知 氏 (草津東高等学校 教頭、 前滋賀県教育委員会 英語指導主事)
<瀬田> 2017年10月17日(火) <深草> 2017年10月19日(木)	学生FDサロン	理想の授業をつくらう	十学部合同学生会
2018年1月22日(月)	研修	「教育の質保証と学修成果の可視化」に関する勉強会	株式会社 SIGEL
2018年2月20日(火)	FDサロン	「龍谷大学の多文化共生キャンパスの実現に向けて」	長谷川 岳史(経営学部)、松居 竜五(国際学部)、 WHITE, Sean Allan (経営学部)、 三原 龍志 (文学部)、木下 謙朗 (経済学部)

開発センター事業内容

<FDフォーラム>

開催日	テーマ	講師
2017年11月17日(金)	“中退予防”を起点にした大学力アップ ーすぐに始める中退予防ー	徳永幸生(芝浦工業大学名誉教授)

<公開授業と講評会>

文学部：1件、経済学部：2件、経営学部：2件、国際学部：1件、社会学部：1件、農学部：1件

開催日	科目名 / テーマ	教員名
2017年10月17日(火)	グローバルスタディーズ学科3つの学問領域(1) グローバリゼーション領域、(2) コミュニケーション領域、(3) エシックス領域に対応した教材作成・教材開発	長尾 明子(国際学部)
11月21日(火)	Moodle機能を使っのチーム基盤型演習(Team Based Learning/TBL)	李 洙任(経営学部)
11月22日(水)	入学時生物・化学プレテストを用いた学部教育適合性の評価解析(継続)	久保田 優(農学部)
12月8日(金)	博士後期課程及び大学院生を対象とした集団スーパービジョンシステムの効果研究	赤津 玲子(文学部)
12月15日(金)	英語での講義(経営学・会計学)の実践の準備	木下 徹弘(経営学部)
12月19日(火)	ソーシャルデザインと創作アートを活用した「ものづくり型PBL」の実践と評価	神谷 祐介(経済学部)
12月20日(水)	英語媒体の補助資料活用のための教材開発	島根 良枝(経済学部)
12月21日(木)	【教材開発】映像編集から“物語”を紡ぐ	松本 章伸(社会学部)

<FD報告会(研修会含む)>

開催日	学部等	テーマ
2017年4月2日(日)	法学部	「基礎演習」担当者説明会(兼FD)
5月17日(水)	国際文化学研究科	大学院FD研究会
5月31日(水)	経済学部	経済学部における進路実績報告
6月14日(水)	法学部	龍谷大学法学部を取り巻く就職環境について
	国際学部	2016年度入学前教育プログラム実施報告会
6月17日(土)	経営学研究科	「龍谷大学大学院経営学研究科での研究・教育を振り返って」、「社会人になった2年間」
6月20日(火)	国際文化学研究科	An Introduction to Cassire's Theory of Culture
6月21日(水)	経済学部	「英語教育における学習者オートノミー育成のための実践例」
6月28日(水)	社会学部	就職状況・大学生基礎力レポート・入学準備サポートプログラムについて
7月5日(水)	経済学部	「身体運動の熟達化に潜むダイナミクスの解明」及び「別府温泉に見る温泉利用の光と陰」
7月12日(水)	法学部	龍谷大学法学部を取り巻く入試環境について
7月19日(水)	経済学部	「Decision-making under scientific ambiguity: an empirical examination using elicited second-order probability and choice data」及び「ネットワーク産業に関する理論研究」
7月19日(水)	国際文化学研究科	ランチタイムセミナー
2017年7月26日(水)	文学部	学びの集大成科目「卒業論文」の現状と課題 ーカリキュラムの体系性との関係からー
	経済学部	「学生を学習支援者として育てていくこと」
	短期大学部	2017年度短期大学部 定員変更ともなう各学科の教育的取組や課題について
8月4日(金)	経営学部	合同型演習における合同報告会I
9月13日(水)	法学部	「法政入門演習」担当者説明会
10月2日(月)	経営学研究科	「日本で活躍中の外国人従業員とインターンシップ経験者の就職の事例にみる日本社会」
10月4日(水)	理工学部	「大学の教育力向上、教育の質保証に向けた改革とICTの活用」にかかる他大学の事例報告

開催日	学部等	テーマ
10月11日(水)	農学部	“PBLとは何か?その学習効果と問題点 ー同志社大学プロジェクト科目を事例としてー”
10月14日(土)	国際社会文化研究所 国際文化学研究科	オーストラリア学会地域研究会
10月15日(日)	国際社会文化研究所 国際文化学研究科	『「伝統知」と「近代知」の相互作用:先住民の自然と文化に関する伝統知を手掛かりとして』
10月25日(水)	法学部	「法政ブリッジセミナー」についてのFD
	実践真宗学研究科	宗教理念と社会実践の思想的接点をもとめて ～実践真宗学研究科公開シンポジウム企画・開催について～
10月30日(月)	経営学部	2017年度第2回経営学部FD報告会 ～2017年度プログラム科目実施報告会～
10月～12月に5回	国際文化学研究科	ランチタイムセミナー/教員研究報告会
11月1日(水)	経済学部	アクティブラーニング型授業の推進と展開・課題
11月29日(水)	国際文化学科	『多文化時代の宗教論入門』をめぐって ー国際文化学科の宗教文化理解に向けた取り組みー
	短期大学部 こども教育学科	今一度自らの授業を振り返ってみよう ーカリキュラム改革ならびに入学定員増における授業の現状と課題ー
12月13日(水)	政策学部 政策学研究科	「政策実践・探求演習(海外)」成果報告会
	短期大学部福祉学科	学生がわくわく楽しくなるコツはこれだ!
12月20日(水)	経済学部	人権研修会
2018年1月17日(水)	政策学部	地域連携型教育(CBL)プログラムのモデル化および質保証の実質化 ー現代のニーズに応える教育を目指してー
1月18日(木)	国際文化学部	優秀卒業論文発表会
1月24日(水)	文学部 文学研究科	「卒業論文」支援体制の構築に向けて ー合同研究室と「大宮 commons」の展開ー
	理工学部	『デジタルファブリケーション教育に関する京都産業大学での取り組みと狙い』
	社会学部	研究倫理について
	農学部	「発達に課題を抱える学生達の姿」
1月29日(月)	経営学部	2017年度第3回経営学部FD報告会～合同型演習における合同報告会II～
2月9日(金)	経済学研究科	大学院教育の抱える課題への対応ー経済学研究科 新カリキュラムー
3月2日(水)	理工学部	機械システム工学科PBL授業の紹介

2017年度自己応募研究プロジェクトポスター展示(研究成果報告)

開催期間：2018年3月26日(月)～4月14日(土)

場所：深草学舎 紫英館1階ロビー
瀬田学舎 1号館1階 エントランス

コメントシート：各プロジェクトの研究成果をまとめたポスターの下にコメント投稿用サイトにアクセスするためのQRコードを貼付しております。ポスターを見て感じたこと・思ったこと等について、より多くの方と共有できればと思いますので、ご覧いただいた教職員、学生の方は、是非コメントをお寄せください。

学修支援・教育開発センターでは、1998年度より、教育方法や教材等に関する研究を支援するため、「自己応募研究プロジェクト」を実施(支援開始以来、計214件のプロジェクトを採択)しています。

2017年度に実施した8件のプロジェクトの研究成果を共有するため、深草学舎及び瀬田学舎においてポスター展示を実施いたします。



大学生の学びを育む学習環境のデザイン 新しいパラダイムが拓く アクティブ・ラーニングへの挑戦



出版年月：2014年4月
著者：岩崎 千晶
発行所：関西大学出版部
価格：本体2,000円＋税
ページ数：402ページ
大きさ：B6
ISBN: 978-4-8735-4575-2

本書は、アクティブ・ラーニングを主軸とした大学生の能動的な学びを育むための学習環境のデザインを構築するための入門書である。理論編では、アクティブ・ラーニングの背景、理念、具体的な手法、学習支援、評価方法について述べ、実践編では演習、多人数講義、ICTの活用、社会連携の視点から授業実践を紹介する。

国際バカロレアと これからの大学入試改革



出版年月：2015年12月
著者：福田 誠治
発行所：亜紀書房
価格：本体2,000円＋税
ページ数：264ページ
大きさ：B6
ISBN: 978-4-7505-1460-4

世界はいま「コンピテンス(知力)」重視の教育へと大きく変わろうとしている。その先兵である国際バカロレアと、いよいよ実施される大学入試改革の狙いに迫る教育関係者必読の書!

ディープ・アクティブ・ラーニング —大学授業を深化させるために



出版年月：2015年1月
著者：松下 佳代
発行所：勁草書房
価格：本体3,000円＋税
ページ数：274ページ
大きさ：A5
ISBN: 978-4-3262-5101-8

ディープ・アクティブラーニングを生起するためのカリキュラム、授業、評価、学習環境のヒントを、理論と実践に即して示す。

アクティブラーニングと 教授学習パラダイムの転換



出版年月：2014年9月
著者：溝上 慎一
発行所：東信堂
価格：本体2,400円＋税
ページ数：196ページ
大きさ：A5
ISBN: 978-4-7989-1246-2

アクティブラーニングは今や大学教育喫緊の課題であり、すでに多くの大学で、教授の講義を一方的に「聴く」受動的授業から、学生が「書く・話す・発表する」活動もおこなうアクティブラーニング授業への移行が試みられている。だがその多くは蓄積された知識伝達という教授の視座に今なお縛られている。本書はアクティブラーニングの理論的整理を進めつつ、教授の視座からの学習的視座へのパラダイム転換、すなわち学生が知識だけでなく、現代的な技能・態度(能力)をも身につけ、経験を組織化して成長する、まさに学びと成長のためのアクティブラーニングの推進を力説するとともに、そのためのアクティブラーニング型授業の変革・向上を主唱する理論的・実践的な体系書である。

「学び」の質を保証する アクティブラーニング —3年間の全国大学調査から



出版年月：2014年5月
著者：溝上 慎一
発行所：東信堂
価格：本体2,000円＋税
ページ数：186ページ
大きさ：A5
ISBN: 978-4-7989-1233-2

教職員の協働なくして「学び」の質保証はない! 教育目的はあっても教育目標がない。教職員間で教育目標が共有されていない。教員がバラバラに自分の得意分野を教えるから、学生の中で知識がつかない。全国調査から浮かび上がった多くの大学の現状を踏まえ、アクティブラーニングと「学び」の質保証を基軸に、旧弊な大学教育の在り方に一石を投じる。

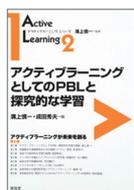
ファシリテーションで大学が変わる：大学編 アクティブ・ラーニングに いのちを吹き込むには



出版年月：2016年3月
著者：中野 民夫 / 三田地 真実
発行所：ナカニヤ出版
価格：本体2,200円＋税
ページ数：163ページ
大きさ：A5
ISBN: 978-4-7795-1057-1

学生に「考える」という行為をもたらすには、本当に小さな「問いかけ」でいい。参加者(学習者)中心の学びや創造の場をつくる技芸であるファシリテーションの技術・心構えと、大学教育でのそのリアルな活用方法を解説する。小中学校編との姉妹本。

アクティブラーニングとしての PBLと探求的な学習



出版年月：2016年3月
著者：溝上 慎一【監修・編】
成田 秀夫【編】
発行所：東信堂
価格：本体1,800円＋税
ページ数：160ページ
大きさ：A5
ISBN: 978-4-7989-1346-9

第1部 理論編(アクティブラーニングとしてのPBL・探求的な学習の理論：問題解決や課題探究のための情報リテラシー教育、高校での探求的な学習の展開)
第2部 事例編(マップ作りを軸としたプロジェクト型学習—学部横断型シグソ—学習法の可能性；岐阜大学の医療系PBL(Problem-based Learning) プライダグをテーマにしたPBL (Project-based Learning)
高等学校での探究型学習とアクティブラーニング 学校設定科目「探究ナビ」におけるアクティブラーニング

アクティブラーニングのデザイン —東京大学の新しい教養教育



出版年月：2016年2月
著者：永田 敬 / 林 一雅
発行所：東京大学出版会
価格：本体2,800円＋税
ページ数：173ページ
大きさ：B6
ISBN: 978-4-1305-3087-3

新しい「学びの場」の創造。アクティブラーニングを活用して東京大学教養学部が進めてきた授業改革の取り組みを、あますところなく紹介する。

アクティブ・ラーニングとしての 国際バカロレア 「覚える君」から「考える君」へ



出版年月：2016年2月
著者：大迫 弘和
発行所：日本標準
価格：本体900円＋税
ページ数：78ページ
大きさ：A5
ISBN: 978-4-8208-0596-0

アクティブ・ラーニング(課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習)とは、どのような実践なのか。その一つの答えとして注目されている国際バカロレア(IB)について、国内の第一人者が解説。

学生力を高めるeポートフォリオ —成功への再始動



出版年月：2018年2月
著者：松葉 龍一 / 小村 道昭
発行所：東京電機大学出版局
価格：本体2,100円＋税
ページ数：150ページ
大きさ：A5
ISBN: 978-4-5016-3130-7

eポートフォリオを導入・実践している組織が抱える悩みや失敗事例を共有し、今後の成功につなげるためのアイデアを紹介。eポートフォリオの基本に立ち返り、つまづきがちなポイントをピックアップ。各シーンにおける注意点を挙げ、現場での試行錯誤に基づく具体的なノウハウを伝授。現場の疑問に答える本音ベースのQ&Aも掲載。

教育分野における eポートフォリオ



出版年月：2017年2月
著者：日本教育工学会
【監修】森本 康彦 / 永田 智子 / 小川 眞代 / 山川 修
発行所：ミネルヴァ書房
価格：本体2,430円＋税
ページ数：232ページ
大きさ：A5
ISBN: 978-4-623-07873-8

eポートフォリオの理論から実践、先端研究・技術まで広く網羅的に解説する。eポートフォリオを活用した教師教育、新しく求められるようになった教育実践への適用と、eポートフォリオを活用するシステム開発の現状と先端研究・技術について解説する。

eポートフォリオ入門 —Maharaでつくる



出版年月：2012年2月
著者：ケント、デンリノ/ハンド、リチャード/フラッドベリ、グレンス/ケント、メグ【著】
大澤 貴史 / 中西 大輔 / 吉田 光宏【共訳】
発行所：海文堂出版
価格：本体3,500円＋税
ページ数：239ページ
大きさ：B5
ISBN: 978-4-3037-3477-0

オープンソースのシステムMaharaの利用方法をわかりやすく解説。ポートフォリオにファイルとブログを追加する方法、グループでの作業やフレンドとの交流、サイト設定とポートフォリオのエクスポートなどを紹介する。

図書貸し出しのご案内

学修支援・教育開発センターでは、高等教育やFDに関する図書を購入し、教職員へ貸し出しを行っておりますので、是非ご利用ください。専任教職員につきましては、学内便での貸し出しも可能です。1. お名前、2. ご所属、3. 教員/職員の別、4. 貸出希望の書名、5. 著者名を明記の上、dche@ad.ryukoku.ac.jp までお申込ください。詳細は、http://fd.ryukoku.ac.jp/for_teacher/siryou/ をご参照ください。



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY